

一人一人の笑顔が輝く、楽しい第四小学校へ向けて

1. 自他を思いやり、生き生きと笑顔で生活できる。
2. 学ぶ意欲を高め、確かな学力を身に付ける。
3. 家庭・地域に信頼され、ともに歩む。
4. 教職員が互いに高め合い、協働する。

そのために、次の4つの柱を立て、教育活動を充実させる。

【豊かな人間性と社会性の育成】

- 「全力あいきつ」を目標に、年間通して、気持ちのよい挨拶ができるようにする。（校内・家庭・地域で）
- 「全力そうじ」を目標に清掃活動に取り組み、校内美化を通して、物を大切にすることや協力して主体的に働く心を育てる。
- 異年齢集団の活動を通して、男女仲良く協力し、助け合うことで、児童の自主性や責任感・思いやりを養う。
- 「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。（「青梅市小中学校道徳科の授業指針」の活用）
- 子供と教師、子供同士の間関係を深め、安心と信頼の学級・学年を築く。
- 児童のスマートフォンやSNS等の適切な利用について、児童に考えさせ、家庭と連携して指導する。
- オリンピック・パラリンピック教育をレガシーとして、推進・指導する。

【確かな学力の定着】

- 聞くときは聞き、話すときは話し、考えるときは考える、真剣な学習態度を育成する。
- 学力向上へ向けて、児童の学習意欲を高め、「力の付く授業」「学びたくなる授業」づくりを行い、基本的な学習内容の習熟を図る。（「青梅市小中学校授業指針」の活用）
- タブレットなどICT機器の有効活用を通して、学習指導を充実させる。
- 「四小スポーツタイム」の実施、各学級の体育指導の充実を通して、児童の健康・体力の増進を図る。
- 学年に応じた家庭学習の内容を示し、「学年×10分」の家庭学習の習慣化を図るとともに、年2回の「メディアコントロールチャレンジ」を実施し、規則正しい生活習慣の定着を図る。

【特別支援教育の充実】

- つくし学級および特別支援教室ひまわりと通常学級の児童間・教師間交流や連携を通して、仲間意識や障害を含む他者理解を深め、偏見をなくし、温かい人間関係を育てる。
- 校内委員会、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーや外部機関と積極的に連携し、児童の特性に応じた指導や支援を行う。
- 校内教育相談体制を強化し、スクールカウンセラーや各種関係機関と連携し、不登校の防止に努める。

【開かれ、信頼される学校】

- 新しい生活様式を踏まえ、学習活動や学校行事の望ましい在り方を検討し、推進する。
- 学校公開および学校評価の実施、学校便りなどの各種便り、ホームページやメール配信により、学校情報のきめ細かい発信を行い、保護者や地域との連携を深める。
- 地域人材の活用や地域の自然・文化・施設等に働きかけ、青梅学を意識した活動や体験的な活動を工夫する。
- 保護者からの相談や連絡などに、丁寧に応じ、早期解決に努める。
- 幼保・小・中の連携を進め、つながりを意識した指導を推進し、教育の質を高める。
- 「学びを止めない」という意識に立ち、バランスの取れたオンライン学習の推進を目指していく。

【その他】

- 校内研究、プチ授業公開（OJT）を充実させ、教員の資質や指導力向上を図る。
- 「チーム四小」の機能を発揮する。
 - ・「報・連・相」を大切に、一人一人が、責任と課題意識をもって校務分掌に取り組む。（協働、助け合い）
- 働き方改革を推進し、時間外勤務 月45時間を超える勤務者ゼロを目指す。
- 課外クラブの金管バンドの活動を通して、児童の心身の成長と社会貢献の意識を育てる。